

# 2025年度事業報告

## 1. 事業概要

当協会は、鋼管杭・鋼管矢板・鋼矢板を建設工事における重要な基礎材料と位置付け、設計・施工・製品に関する技術的知見を社会へ還元することで、安心・安全かつ経済的な社会資本整備に貢献することを目的に活動している。

2025年度は、製品技術委員会、施工委員会と、2022年度から導入したタスクフォース型技術小委員会制を軸とした活動体制の下、基準化対応の迅速化と施工技術の高度化を重点課題として取り組み、具体的な成果創出の段階へと進展した年度となった。

製品標準化分野では、2024年度のJIS改訂（JIS A 5525、JIS A 5530）への対応として、「鋼管杭・鋼管矢板標準製作仕様書（第8版）」を作成・公開するとともに、「SLぐい製品仕様書（第9版）」を改訂発行した。また、吊金具に関する設計および選定の考え方について整理を進め、技術資料の補足整備に向けた検討を行った。

施工分野では、「鋼管杭－その設計と施工－」の施工編の内容刷新を進めるとともに、打撃杭およびパイプロ杭について施工管理方法の実態把握と課題整理を行い、施工管理の適正化・高度化に向けた方向性を整理した。特に打撃杭については、次年度からの公的機関との共同研究に向けた体制整備を行った。また、施工セミナーを2回開催し、施工計画および施工管理に関する技術の普及・浸透を図った。ICT・BIM/CIMの導入を含めた施工管理の高度化についても、引き続き重要課題として位置付けている。

設計・基準化分野では、2025年10月発刊の道路橋示方書・同解説の改定に向けた協力・提案を行い、鋼管矢板基礎については、施工性改善策として継手管内への土砂侵入防止材の充填に関する記述が採用された。一方、鋼管杭の粘り強い強度・変形特性の評価および岩盤支持力評価の明確化については、今回の改定には反映されず、次年度以降の継続課題として整理した。また、「橋台基礎前面補強壁の設計評価方法に関する検討資料」を取りまとめ、協会ホームページに公開した。建築基礎分野では、二次設計法の整備に向けて杭頭接合部実験を実施し、算定手法との整合性を確認のうえ報告書を取りまとめた。港湾分野では、港湾空港技術研究所等との共同研究として実施している波崎海洋研究施設における重防食鋼管杭の40年暴露試験成果を取りまとめ、土木学会年次講演会で報告した。さらに、河川堤防の粘り強い補強手法として提案してきた鋼矢板二重壁構造については、国土交通省から提供を受けた現地での実大規模試験工事を完了し、モニタリングを開始した。今後の基準化および維持管理手法確立に向けた重要な進展が得られた。

鋼管杭の施工資格制度については、他杭種との統合による新たな「基礎施工士」資格制度の下、2026年度からの新試験制度開始に向けた運営体制整備および施工管理人材育成の枠組みを確立した。

このように2025年度は、設計・施工・製品・資格制度の各分野において新体制の有効性が具体的成果として表れ、次年度以降の基準化・標準化および社会実装に向けた確かな基盤を構築した一年であった。

## 2. 理事会、社員総会の開催・運営

当協会は、技術総括委員会が主体となり運営方針等を協議し、下記に示す理事会、社員総会等にて適宜審議を行いながら運営を行ってきた。

(理事会、社員総会等の審議内容)

会議名	開催日	審議内容
監査	2025. 5. 19	2024年度会計監査、業務監査 事業内容及び会計内容の監査実施
第71回理事会	2025. 6. 3	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2024年度監査報告</li><li>・ 技術総括委員長の交代について承認</li><li>・ 役員候補について承認</li><li>・ 代表理事・技術顧問の勤務形態と報酬について承認</li><li>・ 2024年度事業報告、2025年度事業計画案について承認</li><li>・ 2024年度決算について承認</li><li>・ 2025年度収支予算案について承認</li><li>・ 定款、規定類の変更について承認</li><li>・ 2025年度外部委員を含む技術委員について承認</li><li>・ 2025年度定時社員総会の議案の承認</li></ul>
2025年定時社員総会	2025. 6. 17	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 理事、監事選任の承認</li><li>・ 定款の変更について承認</li><li>・ 役員報酬について承認</li><li>・ 2024年度事業報告及び2025年度事業計画案について承認</li><li>・ 2024年度決算について承認</li><li>・ 2025年度収支予算案について承認</li></ul>
第72回理事会	2025. 6. 17	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 会長の選任について承認</li><li>・ 代表理事の選任について承認</li><li>・ 技術顧問の承認</li></ul>
第73回理事会	2025. 12. 11	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 技術総括委員長の選任について承認</li><li>・ 事務局に関する規程等の改訂について承認</li><li>・ 2025年度事業計画進捗報告について</li><li>・ 2025年度予算執行状況、2026年度計画・予算について報告</li><li>・ 委員会の2025年度進捗及び2026年度実施事項案について審議</li><li>・ 鋼矢板二重壁の試験施工進捗と2026年度計画について審議</li><li>・ 道路橋示方書改訂主旨と次期改訂への取り組みについて (土木基礎) 報告</li><li>・ 鋼管矢板基礎の継ぎ手短尺化について報告</li><li>・ 資格統合に向けた取り組みについて報告</li></ul>
第74回理事会	2026. 3. 24	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2025年度事業報告及び2026年度事業計画案について承認</li><li>・ JASPP事務局体制の整理について承認</li><li>・ 「基礎施工士」に関する運営について承認</li><li>・ 2025年度決算見通しについて報告</li><li>・ 2026年度収支予算案について承認</li><li>・ 技術総括委員及び技術総括委員長の退任について報告</li></ul>

### 3. 広報・普及活動

#### 3-1 文書の発行および広報活動

「明日を築く93号」の発刊、WEBサイト（ホームページ）の更新を行った。

種 類	種 別	資 料 名	発行月
広報誌	全般	<p>「明日を築く93号」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄稿 災害時に道路に求められる役割と実現方策 （国土交通省国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部長 七澤利明氏）</li> <li>・ 未来フロント 迅速・確実・強靱 鋼矢板工法による港湾災害復旧の最前線 金沢港「戸水岸壁」災害復旧工事</li> <li>・ テクニカルノート 重防食被覆鋼管杭の長期耐久性調査（暴露40年経過時）</li> </ul>	2026. 3
WEBサイト(ホームページ)	全般	<p>【主な更新内容】</p> <p>① 新規項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「鋼管杭施工管理士」資格が2026年度より「基礎施工士」資格へ統合することをアナウンス</li> </ul> <p>② 内容のブラッシュアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「鋼管杭・鋼管矢板標準製作仕様書（第8版）」を公開</li> <li>・ 施工方法の紹介動画、「明日を築く92号」を公開</li> <li>・ 「橋台基礎前面補強壁の設計評価方法に関する検討資料」を公開</li> <li>・ 「SLぐい製品仕様書」（改訂第9版）を公開</li> <li>・ 「鋼管杭 —その設計と施工— 第3編、第6編」を公開</li> </ul>	<p>2025. 4. 9</p> <p>2025. 8. 29</p> <p>2025. 9. 3</p> <p>2025. 9. 16</p> <p>2026. 1. 30</p> <p>2026. 2. 19</p>

#### 3-2 論文・報文の発表

以下の論文・報文を発表した。

論 文 タ イ ト ル	投稿・掲載先	発行月
最近の鋼管杭の施工管理技術	基礎工	2025. 5
一定軸力と曲げモーメントが作用する鋼管杭頭接合部の破壊性状と曲げ耐力評価～ φ267.4 鋼管を用いた検討～	日本建築学会 近畿支部研究発表会	2025. 6
様々な杭配置に対する群杭効率評価法の研究（その5～7）	日本建築学会大会	2025. 9
一定軸力と曲げモーメントが作用する鋼管杭頭接合部のM-θ関係～ φ267.4鋼管を用いた検討～ その1～3	日本建築学会大会	2025. 9
高波浪海域における重防食鋼管杭の長期暴露試験（40年経過の報告）	土木学会令和7年度全国大会	2025. 9

### 3-3 技術講演の実施

下記の鋼管杭・鋼矢板に関する技術講演を実施した。

開催日	名 称	主 催	場 所	内 容
2025.6.13	TBS工法協会令和5年度通常総会研修会	TBS工法協会	パレスホテル大宮	・鋼管杭の施工に関する資格の統合について
2025.7.9	第2回施工セミナー	(一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会 施工委員会	鉄鋼会館	・鋼管杭-その設計と施工-(赤本)「第5編施工」の改訂内容 ・鋼管杭施工管理士資格制度の変更概要
2025.10.1	建設コンサルタンツ協会 関東支部 講習会	(一社)建設コンサルタンツ協会	WEB配信	・鋼管杭の設計・施工に関する留意点～施工上の利点と設計・施工における留意点～
2025.10.21	鋼構造技術者育成のための講習会	(一社)日本鋼構造協会	アミノ酸会館	・鋼製基礎、鋼管杭について
2025.11.12	第3回施工セミナー	(一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会 施工委員会	鉄鋼会館	・鋼管ソイルセメント杭工法の設計・施工の留意点について ～北海道新幹線での事例を踏まえて～ ・横継ぎ要領、裏当て金の材質についての技術資料 ・鋼管杭の防食について
2025.11.28	建設コンサルタンツ協会 関東支部 講習会	(一社)建設コンサルタンツ協会	WEB配信	・鋼矢板基本技術 ・国土強靱化に資する鋼矢板技術 ・河川堤防新技術(鋼矢板二重壁)

## 4. 委員会活動

### (共通)

- (1) 技術総括委員会にて、活動の企画・立案・管理を行った。
- (2) 施工者を委員に加えた「施工委員会」にて、当協会発行書籍「鋼管杭－施工と施工管理－」に基づく「鋼管杭施工セミナー」を開催し、鋼管杭の施工技術者の育成、技術向上を図った。
- (3) 技術普及のための技術説明会、論文・報文の執筆・投稿を行った。

### (各委員会の活動)

以下の研究および技術活動を実施した。

委員会名	活動項目	目的・実施事項・成果
施工委員会	1. 施工管理要領の整備、更新 (前年度からの継続テーマ)  2. JASPP版資料の整備、更新 (前年度からの継続テーマ)  3. 各種公的規準への織込み (前年度からの継続テーマ)  4. 施工資格制度検討 (前年度からの継続テーマ)  5. 横断的な個別テーマの探索 (新規テーマ)	1. JASPP 版施工管理要領のフォロー・メンテナンス、各社施工計画書への反映浸透、セミナー開催 ・ 鋼管ソイルメント杭工法の設計・施工上の留意点(「北海道新幹線での事例を踏まえて」)等の周知 ・ 打込み小委員会における港空研との共同研究に向けた検討に着手  2. 「鋼管杭-その設計と施工-(赤本)」施工編の対応 ・ 見直し方針の策定および資料作成(現在公開待ち状態)。 ・ セミナー開催し、改訂内容の紹介を実施。  3. 道示・鉄道標準・港湾基準等における施工面での他技術委員会との連携 ・ 打撃杭およびパイプロ杭について施工管理方法の実態把握と課題整理  4. 更新講習の支援(テキスト改訂) ・ JASPP、日基協、COPITA の3協会における資格統合に向けた準備 ・ 資格委員会との協働による検討・調整を実施。  5. 横断的な個別テーマの探索(新規テーマ) ・ (仮称)JASPP-DX に向けた新技術( ICT・ BIM/CIM・IoT 等)に関する基本方針等の検討。他杭種を含めたクラフト・ツール類の状況把握。 ・ 出来形精度等の施工に関する調査・検討 ・ 近接施工に関する情報収集と整理(文献集) ・ 鋼管杭の現場横継ぎ作業要領の検討
鋼管杭技術委員会 (土木基礎小委員会)	1. R7道示改定対応	1. R7道示改定対応 ①目的 実務設計の観点から、鋼管杭の普及・維持・拡大を図る。 ②実施事項 ・ 条文、解説文の改定に関する審議フォロー。

	<p>2. 次期道示改定対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐久性能評価便覧の改定、ならびに設計の手引き(仮)の新規発刊に関する審議フォロー。</li> </ul> <p>③成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29道示と比較して不利益のない内容を確保。</li> </ul> <p>2. 次期道示改定対応</p> <p>①目的</p> <p>鋼管杭基礎の限界状態を再定義し、降伏後挙動を十分に活用した合理的な設計が採用しやすい環境を整備。</p> <p>②実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塑性設計による合理化効果の評価を完了。</li> <li>・ 塑性設計の普及に向けた技術課題を整理し、取組方針を検討。</li> <li>・ 限界状態の定義案に関するバックデータ整理。</li> </ul> <p>③成果</p> <p>塑性化を許容する設計の実現に向けた取組み方針を策定するとともに、基礎データの整理を完了。</p>
<p>鋼管杭技術委員会 (鋼管矢板基礎小委員会)</p>	<p>1. 道示、新鉄道標準改定対応</p> <p>2. 脚付き鋼管矢板基礎の設計方法の整理</p> <p>3. 施工性改善</p>	<p>1. 道示、新鉄道標準改定対応</p> <p>①目的</p> <p>実務設計の観点から、鋼管矢板基礎の普及・維持・拡大を図る。</p> <p>②実施事項</p> <p>条文、解説文の改定に関する審議フォロー。</p> <p>③成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29 道示と比較して不利益のない内容を確保。</li> <li>・ H24 鉄道標準と比較して不利益のない内容を確保。</li> </ul> <p>2. 脚付き鋼管矢板基礎の設計方法の整理</p> <p>①目的</p> <p>施工性の改善に寄与する脚付き鋼管矢板基礎の設計方法確立</p> <p>②実施事項</p> <p>塑性化を考慮しない(降伏しない)範囲における設計方法の整理、ならびに塑性を考慮(降伏以降を考慮)した設計方法の確立に向けた技術課題の整理。</p> <p>③成果</p> <p>国総研・土研との協議に資する資料を作成(2026年度に、塑性化を考慮しない範囲における設計方法の確立を目指す)。</p> <p>3. 施工性改善</p> <p>①目的</p> <p>鋼管矢板基礎の施工性向上</p>

		<p>②実施事項 継手処理の改善策について道示施工編への記載を提案。</p> <p>③成果 R7 道示(施工編解説)において、施工性改善方策(継手内充填材)の追記を実現</p>
鋼管杭技術委員会 (建築基礎小委員会)	<p>建築2次設計法の整備</p> <p>1. 杭頭接合部, 杭体(ずれ止めのないコンクリート充填部, 中空部, CFT杭)の耐力と変形性能</p>	<p>1. 杭頭接合部および杭体の耐力と変形性能</p> <p>①目的 「基礎部材の強度と変形性能(日本建築学会)」の改定に向けた技術課題を検討し、改定版へ反映を図る。</p> <p>②実施事項・成果 【杭頭接合部: 東北大・大阪公立大 共同研究】 ・φ500鋼管での実大実験を実施し、実験結果に基づく耐力算定法の妥当性検証、変形能算定法の構築 ・耐力および変形能の算定法について妥当性の確認、報告書作成 ・論文7編を投稿(2026年度日本建築学会大会) ・日本建築学会「基礎部材の強度と変形性能小委員会」において、上記算定法を提案</p> <p>【杭体】 ・耐力および変形能の算定式の構築と見直し －ずれ止めのないコンクリート充填部 －中空部(中空鋼管) －CFT杭(コンクリート充填内面突起付き鋼管部)</p>
	<p>2. 群杭の水平抵抗(群杭係数算定法の構築)</p>	<p>2. 群杭の水平抵抗(群杭係数算定法の構築)</p> <p>①目的 鋼管杭が使用される環境を作り出すため、設計方法の標準化およびツールの実用化を図る。あわせて、次期「建築基礎構造設計指針(日本建築学会)」への反映を目指す。</p> <p>②実施事項・成果 ・論文投稿(日本建築学会 技術報告集) ・鋼管杭基礎の設計実務に適用可能な群杭係数算定法(等価杭間隔法×等価杭径法)を確立し、設計根拠として整理</p>
鋼管杭技術委員会 (港湾・防食小委員会)	<p>1. 重防食被覆の長期耐久性</p>	<p>1. 重防食被覆の長期耐久性</p> <p>①目的 重防食被覆の耐久性の実証</p> <p>②実施項目・成果 ・長期暴露40年目の観測結果とりまとめ、「重防食として必要な性能は維持している」ことを、</p>

		<p>土木学会年次学術講演会にて報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期暴露41年目の観測を実施し、目視検査で40年目と比較して変状が認められないことを確認。補修試験部のチタンカバーの損傷を補修。</li> </ul>
鋼矢板技術委員会 (河川堤防小委員会)	<p>1. 国交省「河川堤防の強化に関する技術検討会」に係る技術公募への対応</p> <p>2. 鋼矢板技術普及・定着に向けた技術基盤整備</p>	<p>1. 国交省「河川堤防の強化に関する技術検討会」に係る技術公募への対応</p> <p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越水に対して粘り強い河川堤防強化技術として、鋼矢板二重壁工法の公的オーソライズ化を図る。</li> </ul> <p>②実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道千歳川遊水地における試験施工の推進</li> <li>・土研・国総研との技術協議(変状連鎖図作成等)</li> <li>・鉄連学助成研究(山口大学 森准教授)</li> </ul> <p>③成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験施工として鋼矢板二重壁および計測機器設置完了、モニタリング調査開始(～27FY予定)</li> <li>・国交省、北海道開発局、国総研、土研、JICEが出席する意見交換会を開催</li> <li>・変状連鎖図の作成完了(26FY変状促進試験予定)</li> </ul> <p>2. 鋼矢板技術普及・定着に向けた技術基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設コンサルタント協会主催の技術講習会対応</li> </ul>
製品技術委員会	<p>1. 2024年度活動報告まとめ</p> <p>2. 規格・技術資料の改訂推進</p> <p>3. 新規課題への対応</p>	<p>1. 昨年度の活動報告書の取りまとめ</p> <p>2. 技術資料改訂版の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年版JISに対応した「鋼管杭・鋼管矢板標準製作仕様書」の改訂(第8版)</li> <li>・解説内容の見直し、引用文献の更新ならび設計 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施工に関する記載の参考資料への分離を行った「SLぐい製品仕様書」の改訂(第9版)</li> </ul> </li> </ul> <p>3. 新規に発生した課題への対応を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10t以下用標準吊金具の孔径見直しの要否に関する再検討</li> </ul>
広報委員会	<p>1. 「明日を築く」発刊</p> <p>2. ホームページ定期更新</p>	<p>1. 「明日を築く第93号」の発刊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙面構成、寄稿・取材案件等の候補を策定</li> <li>・執筆依頼から印刷・製本・郵送まで一連の取りまとめを実施(2025年度末発刊済)</li> </ul> <p>2. ホームページの定期更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協会からのお知らせや技術資料等のアップロードなど、公開内容の更新を推進</li> <li>・必要に応じた追加コンテンツの新規作成や資料充実化等を推進</li> </ul>
赤本編集WG	<p>1. 「鋼管杭ーその設計と施工ー」の改訂</p>	<p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術資料の完成</li> </ul> <p>②実施事項</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術記載事項の転載許可（特にWEB公開の場合）が厳格化する中、記載項目の選定ならびにと独自資料の作成・関係先との調整を実施</li> </ul> <p>③成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3編（調査）、6編（防食）の公開</li> </ul>
資格委員会	<p>1. 鋼管杭資格運営協議会</p> <p>2. 鋼管杭施工管理士検定試験委員会</p> <p>3. 「基礎施工士」への統合活動</p>	<p>1. 鋼管杭資格運営協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を確定し、「鋼管杭施工管理技術者講習会」の2026年度開始に向けた準備に着手</li> <li>・2025年度末をもって解散し、これに伴う各種手続きを実施</li> </ul> <p>2. 鋼管杭施工管理士検定試験委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度末をもって解散し、これに伴う各種手続きを実施</li> </ul> <p>3. 「基礎施工士」への統合活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JASPPからの委員として、委員長1名（代表理事）、委員7名（資格委員6名、事務局員1名）を選任</li> <li>・JASPP、日基協、COPITAの3協会により資格運営協議会を開催し、鋼管杭施工管理士と基礎施工士の統合に係る課題解決に向けた対応を2025年度に実施</li> </ul>

## 5. その他の活動

### 5-1 出版物の発行

- ・鋼管杭・鋼管矢板標準製作仕様書 第8版 2025年8月（WEB公開）
- ・橋台基礎前面補強壁の設計評価方法に関する検討資料 2025年9月
- ・「SLぐい製品仕様書」（改訂第9版）2026年1月（WEB公開）
- ・鋼管杭 -その設計と施工- / 第3編 調査と載荷試験, 第6編 腐食及び防食 2026年2月（WEB公開）